

神戸常盤大学同窓会中部支部便り

初めまして、福井県越前市に居住している神戸常盤短期大学衛生技術科第5期生（昭和48年卒業、年齢58歳）の重屋志啓盛です。昨年春に神戸常盤大学同窓会会長佐々木千佳子様より、中部支部の支部長を引き受けてもらえないかと依頼され、一昨年10月にクラス会に参加（実に卒業後38年ぶりで、特に同じクラスの方は卒業当時そのままの記憶がよみがえりました）したこともあり、大変僣越ですが了解しますと返答致しました。卒業後「同窓会誌 ときわびと」は定期的に送付され、母校の状況や卒業生のご活躍ぶりを拝読しておりましたが、同窓会にブロックごとの支部が有ることは知りませんでした。自動化学会や、近畿学会、全国学会など、卒業後かなりの回数で神戸は訪れていましたが神戸常盤の学舎を訪れたことは20代に訪れたのみでした。一昨年のクラス会の時、舞鶴・若狭自動車道経由で須磨水族館で出て、神戸常盤大学を訪れました。大学は大きく立派になり、母校の発展を嬉しく感じました。しかし阪神淡路大震災被災後の市街地整備で、下宿していた須磨区の板宿や、通学路の西代、常盤への上り坂入口付近など、市街地の様相が38年前とは大きく様変わりしており、阪神地域に居住されている同窓生の方も大変なご苦労をされたであろうと思いました。

さて、前置きが長くなりましたが、中部支部季節便りとして福井の冬景色と考えていましたが、現時点で降雪が少なく北陸の冬景色らしくないので、我が本拠地の越前市白山地区（豊岡市のコウノトリの里公園付近と気候、地形などの共通点が多い）に兵庫県豊岡市コウノトリの里公園から、国の特別天然記念物「コウノトリ」のつがいが出てきて、コウノトリの自然復帰を目指す取り組みを紹介したいと思います。（野生種は既に絶滅している）ここでつがいが増殖を成功させ、幼鳥が無事巣立てば、豊岡に次いで国内で2番目の自然復帰が実現することになります。この自然再生の取り組みは40年前にさかのぼる事実があり、旧武生市白山地区に、下くちばしの先端が折れたコウノトリ（コウちゃんと命名）が飛来し約半年滞在した時、地区の小学生、住民や行政が力を合わせ保護活動を行ないましたが、満足に餌のとれないコウちゃんは徐々にやせ衰え、これを見かねた地区民や行政がコウちゃんを助けるために捕獲して、先進地である豊岡の飼育施設に移送し、大切に飼育されて子孫を多く誕生させた事も今回の取り組みに深くかかわっています。コウノトリは生物多様性の頂点に位置する鳥で肉食です、成鳥を養う餌を自然界で確保するには、40年～50年前の農村に近い自然環境が必要で、それはとりもなおさず無農薬、無化学肥料、での農業と、生き物（メダカ、フナ、ドジョウ、カエル、ヘビなど）が自由に行き来できる水田（耕地整理により乾田化された水田に生物はほとんど住めない。）が最も適しています。福井県の里山で、本業臨床検査技師、休日は地域活動・農林業など、年中無休状態の日々です。中部支部は同窓会の活動実績は有りませんが、今後事務局の助言を得ながら「ときわびと」に紹介できるような取り組みを進めたいと思います。

